

第31回品質保証検討会 議事録

1. 日時 平成23年3月1日(火) 13時30分～15時30分

2. 場所 日本電気協会 4階C, D会議室

3. 出席者(順不同, 敬称略)

出席委員: 渡邊主査(東京電力), 鈴木副主査(中部電力), 井上(日本原子力技術協会), 今村(三菱重工業), 大谷(三菱電機), 岡部(IHI), 小林(原子燃料工業), 齋藤(西日本技術開発), 笹原(東北電力), 島津(北海道電力), 高橋(富士電機システムズ), 手束(四国電力), 堂野(関西電力), 中村(日本原燃), 錦野(日立GE ニュークリア・エナジー), 長谷川(電源開発), 東(九州電力), 深川(三菱原子燃料), 薮内(日本原子力研究開発機構), 渡辺(原子力安全基盤機構) (計20名)

代理委員: 深堀(グローバル・ニュークリア・フュエル・ジャパン小宮山代理), 中川(東芝・佐藤代理), 高田(中国電力船来代理) (計3名)

欠席委員: 小野(原子力安全・保安院), 小坂(原子力安全・保安院), 佐藤(日本原子力発電), 辰巳(北陸電力) (計4名)

新委員候補: 池田(東京電力), 高田(再掲/中国電力; 代理出席) (計2名)

常時参加者: 大石(東京電力) (計1名)

オブザーバ: 米田(原子燃料工業) (計1名)

事務局: 糸田川, 吉田(日本電気協会) (計2名)

4. 配付資料

資料31-1 品質保証検討会委員名簿

資料31-2 第30回品質保証検討会 議事録(案)

資料31-3-1 JEAG4121 附属書2 追補(案)に関する第39回原子力規格委員会書面投票(二次投票)の結果について(日電協22 技基第584号)

資料31-3-2 JEAG4121 附属書2 追補(案)に関する第39回原子力規格委員会書面投票(二次投票)における意見への対応について(案)

資料31-4 QMS構造検討WG中間報告

資料31-5 平成22年度JEAC4111 講習会の実施結果について

資料31-6 JEAC4111 に関する質問への回答(案)

資料31-7-1 平成23年度分科会活動計画(案)

資料31-7-3 平成23年度JEAC4111 講習会等スケジュール(案)

資料31-7-2 平成23年度各分野の規格策定活動(案)

資料31-7-3-1 平成23年度品質保証検討会作業体制(普及促進チーム)案

資料31-7-4 JEAC4121 附属書1「標準品質保証仕様書」英訳版の発行について

資料31-7-4-1 JEAG4121 附属書1「標準品質保証仕様書」英訳版(ドラフト)

参考1 第29回品質保証分科会議事録(案)

参考2 第39回原子力規格委員会議事録(案)

参考3 委員出欠表

参考4 原子力規格委員会 国際的活動推進の考え方(案)

5. 議事

(1) 定足数確認

渡邊主査による代理委員3名の承認後, 事務局より, 代理委員を含め出席委員数が23名で, 全委員27名の3分の2以上となり, 議案決議の定足数を満たしていることが確認され

た。

(2) 検討会委員名簿の確認，前回議事録の確認

事務局より，資料 3 1 - 1 に基づき，新委員候補 2 名（池田氏：常時参加 委員候補へ，高田氏：船来委員と交代）の紹介があった。また，資料 3 1 - 2 に基づき第 3 0 回品質保証検討会議事録(案)が紹介され，正式な議事録とすることが確認された。さらに，参考 1 ， 2 に基づき，至近の品質保証分科会及び原子力規格委員会の議事録案が紹介された。

(3) J E A G 4 1 2 1 - 2 0 0 9 「原子力発電所における安全のための品質保証規程(J E A C 4 1 1 1 - 2 0 0 9) の適用指針」-原子力発電所の運転段階-附属書 - 2 [「根本原因分析に関する要求事項」の適用指針]の 2 0 1 1 年追補版(案)に関する原子力規格委員会 2 次書面投票における意見への対応について(確認)

はじめに事務局より，本追補版(案)は公衆審査(H22.12.28~H23.2.27)において意見がなかったため，2月27日に制定となり発刊準備に入った旨の説明があった。

なお，2次書面投票時の意見については，渡邊主査及び大石氏(常時参加)より，資料 3 1 - 3 - 1 ， 2 に基づき対応する必要のないことの説明があり，委員から特にコメントはなく了解された。

(4) QMS の構造に関する検討状況について(中間報告)

齋藤委員より資料 3 1 - 4 に基づき，QMS 構造の検討状況について説明があった。一部脱字修正や表現の適切化が必要とのコメントがあり，渡邊主査において修正後，委員に送付・確認を得た上で，3月7日の品質保証分科会において中間報告することが全員の挙手により可決された。

(5) JEAC4111 講習会の実施結果について(報告)

事務局より，資料 3 1 - 5 に基づき，JEAC4111 講習会の実施結果報告資料について説明があった。一部表現の適切化が必要等のコメントがあり，事務局において修正後，委員に送付・確認を得た上で，3月7日の品質保証分科会において報告するとともに，3月11日の原子力規格委員会において1頁と3頁の2枚により報告することが全員の挙手により可決された。

[主なコメント]

・ 1 頁と 3 頁の申込数は，平成 2 2 年度活動実績の受講者数と整合を取る意味からも，受講者数として集約するのが適切である。

拝承。

(6) JEAC4111 に関する質問への回答について(審議)

大石氏より，資料 3 1 - 6 に基づき，講習会開催時に寄せられた質問に対する回答案について説明があった。一部表現の適切化が必要等のコメントがあり，大石氏において修正後，委員に送付・確認を得た上で，3月7日の品質保証分科会上程するとともに，3月11日の原子力規格委員会において報告することが全員の挙手により可決された。

なお，本資料は規格員会報告後，質疑応答として日本電気協会ホームページに掲載されることを確認した。

(7) 平成 2 3 年度活動計画について(審議)

渡邊主査より，資料 3 1 - 7 - 1 ~ 7 - 4 - 1 に基づき，分科会の活動計画案について説明があった。一部表現の適切化が必要等のコメントがあり，主査において修正後，委員に送付・確認を得た上で，3月7日の品質保証分科会上程するとともに，3月11日の原子力規格委員会において報告することが全員の挙手により可決された。

[主なコメント]

- ・資料3 1 - 7 - 1の2 2年度活動実績の(3)の各コースの見直し内容の記載が細かすぎるので簡潔にすること。
 - ・2 3年度計画のコースの講習会開催頻度2回は決定しているのか。
頻度については、今後アンケートをとって決めるので、開催頻度は削除する。
 - ・JEAG4121 附属書-1の英訳版の分科会規格委員会への上程時期が5月6月は早すぎる。
8月、9月に修正する。
 - ・資料3 1 - 7 - 3 - 1の資料中の普及促進チーム作業会メンバーの説明文「検討会委員全員を原則とし、汗を流し、テキストを作成し、講習などで講師を務めて頂くことを条件とする。」について、特に「検討会委員全員を原則とし、」の記載をすることについて賛否の決議が必要でないか。
重要な記載であるので、この場で決議をとりたい。
- [挙手による決議の結果、23名中、22名賛成、1名保留によりこの記載を入れることが可決された。]
- ・資料3 1 - 7 - 3 - 1の普及促進チームの作業体制は、今後詳細を決めていくので、3月7日の分科会資料には含めないこと。
了解。
 - ・資料3 1 - 7 - 4のはじめに「2年前の品質保証分科会にて、プラントメーカー等からの反対意見・・・」の部分は、プラントメーカーが強調されているが、電力会社でも反対は多かったのではないか。
削除し、本英訳版発行に際して、必要な作業チームを編成して行う等の趣旨の記載に見直したい。

(8) その他

主査選任について

渡邊主査より、次年度は主査を退任するので、新主査候補者を選任して欲しいとの発言があった。齋藤委員より池田新委員候補者を新主査に推薦する発言があり、全員の賛同が得られ、池田新委員候補が新主査に選出された。ただし、前提条件として、「池田新委員候補が3月7日の品質保証分科会において検討会委員として承認されること。」を確認した。

委員出欠表について

委員の貢献度評価に関連して、参考3の委員出欠表を確認した。ほとんど出席していない委員について、事務局から委員会活動への参加の意思を確認することとした。(確認後、事務局から委員に報告する。)

なお、常時参加者は委員とは性格が違うが、出欠表に追加することとした。(修正後、事務局から委員に送付する。)

次回開催予定について

次回開催日程は、別途調整することとした。

委員会の審議プロセスについて

鈴木副主査からの提案により、分科会での議論もふまえ次回の検討会において、規約とその背景について説明することになった。

以上